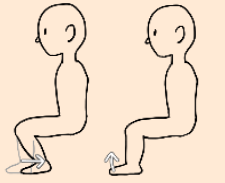


Brunnstrom Stage

氏名: _____ 様 _____ 令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

※いずれか一つでも可能なステージを評価ステージとする。

		手 指	上 肢	下 肢
Stage I	弛緩性麻痺	☐ 随意的な筋収縮が全くない	☐ 随意的な筋収縮が全くない	☐ 随意的な筋収縮が全くない
Stage II	連合反応	☐ 非麻痺側の運動に際して、麻痺側に不随意の収縮が出る	☐ 非麻痺側の運動に際して、麻痺側に不随意の収縮が出る	☐ 非麻痺側の運動に際して、麻痺側に不随意の収縮が出る
	共同運動 (部分的)	☐ 手指屈曲がわずかに可能	☐ わずかに共同運動が出る	☐ わずかに共同運動が出る
Stage III	共同運動	☐ 手指全体で屈曲できるが伸展できない	☐ 随意的な腕の上げ下ろしができるが、肘屈曲を伴う	☐ 座位で、随意的な股関節、膝関節、背屈の共同運動が可能
Stage IV	分離運動 (部分的)	☐ 手指全体の伸展が少し可能	☐ 腰に拳を持っていく 	☐ 座位で、足を後方へ引くことが可能
		☐ 横つまみが可能 	☐ 肘伸展位で、肩屈曲90°可能  ☐ 肘屈曲90°で体につけて、前腕を回内外できる 	☐ 座位で、足を背屈可能 
Stage V	分離運動 (全般的)	☐ 対向つまみ、筒握り、球握りのいずれかが可能  ☐ 手指全体の伸展が可能 	☐ 前腕回内・肘伸展位で、肩外転90°可能 ☐ 肘伸展位で、手を頭上まで挙上可能 ☐ 肘伸展位・肩外転90°で、回内外可能	☐ 立位で、膝関節だけを屈曲できる  ☐ 立位で、足を背屈することができる
Stage VI	分離運動 自由に行える	☐ 全ての握りが可能  ☐ 手指全体の伸展が完全に可能 	☐ stage Vまでの運動を、非麻痺側と同程度円滑に行える	☐ 立位で、骨盤の挙上範囲を超えて股関節外転可能 ☐ 座位で、足内反+下腿内旋と、足外反+下腿外旋の、相反的活動が可能

備考

評価

手指: _____ 上肢: _____ 下肢: _____ 検査者: _____